

造血幹細胞移植患者の血液検査値を用いた口腔粘膜炎に対する歯科対応

○ 森川優子、吉田衣里、高島由紀子、平野慶子、仲野道代

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野

### 【目的】

がんの治療のため造血幹細胞移植を行う患者においては、通常の化学療法に加えて移植直前に前処置として大量化学療法と放射線治療を行う。それに伴い高度の好中球減少が長期に渡って生じ二次的な局所感染による口腔粘膜炎の発症リスクがより高くなる。今回我々は、造血幹細胞移植を行った小児患者において、血液検査値の推移と口腔粘膜炎との関連性について検討したので報告する。

### 【対象と方法】

本研究は、岡山大学生命倫理審査委員会の承認を受け行った。造血幹細胞移植を受けた保護者の同意が得られた小児患者 8 名において造血幹細胞移植前後 2 週間の血液データの推移と口腔粘膜の状態について比較を行った。

### 【結果】

患児 8 名のうち 6 名に口腔粘膜炎が認められた。前処置の期間は 6 日～14 日間と様々であるが口腔粘膜炎の発生については関連性が認められなかった。いずれの患児においても白血球数値は移植前処置でほとんど 0 に近い値を示した。移植前に CRP 値が正常範囲内であった患児も移植後約 1 週間で CRP 値の上昇を認めた。口腔粘膜炎の発生時期は造血幹細胞移植後 1～2 週間後に多く、CRP 値が高い状態が持続すると発症することが多いことが示された。また移植前から高い CRP 値を示している患児は 3 名であり、そのうち 2 名は grade3 の口腔粘膜炎が生じた。

### 【考察】

移植前より CRP 値が高い場合はすでに口腔粘膜炎が生じている場合や、またはこれから生じる可能性が高いことが考えられる。移植前に口腔粘膜炎を生じた場合、前処置によりさらに免疫機能が低下することによって、重度の口腔粘膜炎を惹起することに繋がり、治癒にも時間を要する。また移植後に移植片対宿主病 (graft-versus-host disease) に伴い口腔粘膜炎を生じたり、口腔粘膜炎が悪化する可能性も考えられる。

歯の萌出期や交換期であること、口腔衛生状態の不良なども口腔粘膜炎を悪化させる要因になっている可能性がある。

移植前からの口腔内および口唇保湿指導と口腔清掃指導だけではなく、血液検査値等を含めた全身的な状態に配慮しながら口腔粘膜炎のリスクが予測できれば、粘膜障害の重症化を防ぎ、疼痛を緩和することができるのではないかと考えられる。